

(Daily 日本史) ~陶磁器の歴史~

【問】 2002年 立命館大学

国際関係, 文, 経済, 国際イ(国際関係), 人文総合科学イ(文(学際プロ/国際プロ)), 文理総合イ(経済)

次の文章〔1〕～〔3〕の〔A〕～〔J〕にもっとも適当な語句を入れ、また文中の下線部(a)～(e)に該当する地点を次の地図から一つずつ選び、記号で答えよ。

〔1〕 5世紀になると、大陸・朝鮮半島から多くの人々が日本に移住して、生活・文化・政治など、様々な分野に大きな変化がもたらされた。そうした流れに伴って、朝鮮半島から〔A〕と呼ばれる新しい焼き物が導入された。〔A〕は、あな窯と呼ばれるトンネル状の窯を斜面に築き、1100度を越える高温で焼成された。〔A〕の出現は日本の焼き物の歴史の中では大きな変化であったが、釉薬をかけない点ではそれ以前の土器と基本的に同じであり、素焼きであった。7世紀後半になって、ようやく釉薬をかけた焼き物が出現する。奈良時代になると、唐三彩を模倣した奈良三彩が焼成され、緑色だけではなく、複数の色の釉薬が使用された。

古代末～中世には、中国から高級な磁器が大量に輸入されるようになった。当時の日本ではこうした焼き物を生産する技術がなかったため、現在の愛知県にあたる地方では、それらを模倣した高級施釉陶器が生産された。この地域では近世以降も生産が継続されているため、新しい時代の〔B〕焼と区別して、古〔B〕と呼んでいる。

そうした高級品の生産に対して、生活必需品である壺・甕・すり鉢などの雑器を中心にした新しい焼き物(中世陶器)が各地で生産されるようになる。中国地方で生産された〔C〕焼や、(a)信楽焼、(b)常滑焼などはその一例である。これらは日常品であるため、当時は釉薬を用いなかった。当時の日本には多くの焼き物産地があったが、釉薬をかけた焼き物は、高級陶器の古〔B〕のみであった。

16世紀から17世紀にかけて、日本の焼き物はさらに大きく変化する。豊臣秀吉による朝鮮侵略によって、諸大名が陶工を強制連行して自らの領地で生産を行わせたといわれている。〔D〕焼や萩焼、(c)上野焼、薩摩焼などが著名である。

〔D〕は陶器の積み出し港の地名であり、近世以後広く流通したことから、西日本では陶器の総称になっていた(なお、東日本では主に流通していた「〔B〕もの」が焼き物の総称となっていた)。これ以後、各地の焼き物のほとんどが釉薬をかけたものに変化して現在に至っている。

それらとは別に、京都の街中では低火度焼成の陶器が生産されていた。その一部が代々京都で生産されている楽焼であり、当初は豊臣秀吉の造営した〔E〕の土を用いて焼かれたといわれている。一般的には中国南部の技術系譜をひく焼き物と考えられている。

[2] 日本では江戸時代まで磁器を生産することができなかった。17世紀の前半に^(d)泉山で磁石が発見され、その周辺ではじめて磁器を生産するようになった。ここでは鍋島藩の保護を受けて、磁器生産が活発化した。17世紀中頃、明清騒乱で中国の磁器の輸出が困難になったが、日本の窯場は[F]の注文にこたえ、大量の製品をヨーロッパに輸出した。なかには、[F]の略称である「VOC」マークを入れた磁器もある。ヨーロッパに輸出された製品はその嗜好^{しこう}に応じたものであり、当初は中国磁器などの見本を提示して注文された。日本で最初に赤絵(色絵)を始めたといわれる人物の名前をとって、[G]様式といわれる。しかし、最近では彼以前にすでに色絵磁器を生産していたことが判明している。

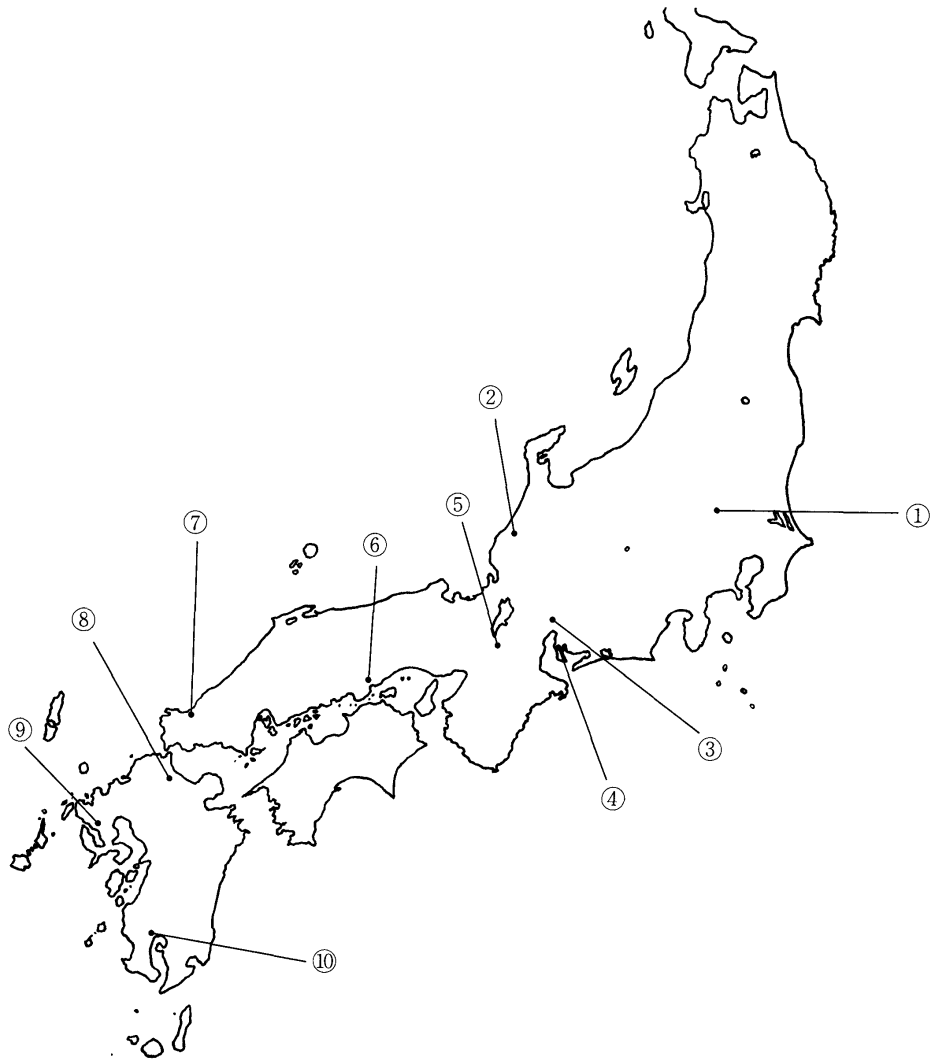
この地で生産される磁器はヨーロッパ向けの輸出で大きく発展し、国内にもさらに多く流通するようになったが、近隣の港から各地に出荷されたことから、積み出し港の名前を付して[H]焼と呼ばれた。現在でもそうした呼び方が残っている。

なお、17世紀段階で磁器生産を行っていた産地は、この地の周辺以外では、^(e)九谷窯と姫谷窯だけであったといわれている。

[3] 京焼は近世以後、京都で生産された陶磁器の総称である。戦国時代が終わりを告げ、政治の中心が江戸に移ったあとに発展した産業であり、近世における文化都市京都の代表的な産業の一つとして注目される。

17世紀の後半には、京焼における色絵の創始者といわれている[I]があらわれる。彼は丹波出身の陶工で、仁和寺の庇護を受けて窯を開いた。茶陶を中心に生産を続けたが、2代目の頃には茶陶の人気も衰え、その弟子が仁和寺にほど近い鳴滝に新しい窯を築く。彼の作品は会席料理の器を中心にしており、新しい時代の波を反映している。中には、画家である兄の[J]に絵付けをしてもらい、自らは讃を書いた皿も残している。

その後、京焼の産地は東山山麓に集中するようになる。しかし、細かく見れば粟田口や五条坂などいくつかの産地に別れており、「清水焼」の名前が現在のように京都の焼き物の総称として使用されるのは、のちのことである。



【解答】

A 須恵器

B 瀬戸

C 備前

D 唐津

E 聚楽第

F オランダ東インド会社

G 柿右衛門

H 伊万里

I 野々村仁清

J 尾形光琳

(a) ⑤

(b) ④

(c) ⑧

(d) ⑨

(e) ②